川崎　律子　先生

略歴

1986年　歯友会歯科技術専門学校（現 明倫短期大学）卒業
　　原田歯科医院勤務
2010年　明倫短期大学勤務
2011年　明倫短期大学口腔保健衛生学専攻科非常勤講師
　　フリーランス
2012年　長谷川歯科医院勤務

所属団体・学会

日本歯周病学会認定歯科衛生士
日本臨床歯周病学会認定歯科衛生士
日本口腔インプラント学会認定インプラント専門歯科衛生士
日本顎咬合学会認定指導歯科衛生士

生涯現役
～長く続けたからこそ見えること～

長谷川歯科医院
川崎　律子

長年にわたり歯科衛生士業務に携わってまいりました。歯科界においては時代の流れとともに様々な変革があり，興隆と衰退の波動を経験してきました。その中で揺るぎない地盤を築いているのが歯周治療です。この歯周治療に魅せられいつの間にか32年が経過いたしました。長くこの仕事を続けてきて思うことは，歯科医療を通じて患者さんの人生を豊かにすることができる素晴らしいライセンスだということです。また長い間ひとりの患者を診ていくことは自分が行ってきた治療やケアの結果を見ることができます。「自分の仕事の価値」というものを評価できるということに醍醐味を感じています。仕事を続けるうえでハードルと思えた出産や育児も，今振り返ってみるとそこから得るものは大きく，それが患者さんに寄り添える力に変わっていました。時間の使い方の最適化，優先順位の即断力，行動変容技術，忍耐力，交渉術…，このようなスキルも子育てから学んだのかもしれません。ライフイベントの経験から得られる貴重な視点は今や私の財産となっています。そして長年この仕事に取り組んだプロセスの中からは技術・知識・経験に加えて人間性を磨いていくことができ，さらに自分自身の生き方も磨けたように思います。今，プロとしてこの仕事に誇りを持ち夢中になれていることを幸せに思います。これからも生涯現役を目指してできる限り続けたいと思っています。

本シンポジウムではこれまでの臨床の経験から歯科医師との関わり方，チームの作り方，患者さんとの関係性の構築方法など，繰り返してきた中で培った「仕事術」を交えながら，長く患者さんを診ていくコツと，現在の当医院での歯周治療の取り組みをお話したいと思います。

歯周病の治療は専門知識と高度な技術そして多くの能力が求められています。多因子疾患であるこの慢性疾患に対応するために患者さんの病態や生活環境，健康に対する価値観，性格までを見極め“人となり”を把握しなければ治療結果に繋がらないことを経験してきました。そのためにも最初の歯周基本治療の段階でいかに多くの情報を得るか，いかに患者さんに専門的な話をわかり易く伝え行動変容させることができるかが重要なポイントです。すなわち歯科衛生士のコミュニケーション力というものが大きく関係してくるのです。“病態を診る目”と“人を見る目”を持ち合わせた治療の提供が私達歯科衛生士の使命と考えます。また歯周病は，歯科医師あるいは歯科衛生士が一人で対応できる疾患ではありません。術前診査から一貫して情報を共有しチームとしてぶれない方針で患者を診ていく必要があります。歯周基本治療に入る前に，歯科医師と歯科衛生士がデンタルカンファレンスを行い戦略的治療方針を立案し施術することがとても大切なのです。現在は戦略を考えるにあたり，病気の診断・治療方針の選択・予後の判定などの判断材料としてさまざまな臨床検査を積極的に導入しています。いまだ検査値のメルクマールには課題はありますが現段階での捉え方などもお伝えできればと思います。そして歯周基本治療だけでは解決しづらいケースに対しては，的確な診断のもとで最小限の外科的アプローチを施すことも必要となってきますので，数々の臨床経過の実績からカンファレンスでのケースの見極めやチーム医療に必要なエッセンスもお伝えしたいと思います。

貴島　佐和子　先生

略歴

1984年	大阪歯科学院専門学校卒業
	本多歯科医院勤務
2003年	南歯科医院勤務
2010年 4 月	日本臨床歯周病学会認定歯科衛生士
2014年～	大阪大学歯学部付属歯科技工士学校非常勤講師
	5－D　Japan DHコース講師

臨床経験を通して変わって来たものと変わらないものを考える

医療法人晧隆会 南歯科医院
貴島　佐和子

近年の歯科医療の進歩は目覚ましく，一昔前には考えられなかった程治療のオプションは増え，さらにインターネット等による歯科治療情報の一般の人たちへの普及により，患者の歯科に対する要望も高くなってきているようです。歯周治療の分野においても診断技術や歯周再生治療などの進歩で，歯周病に罹患してしまったとしても矯正治療やインプラント，再生治療によりより天然歯となんら変わらず機能を果たし長期安定できるような治療のゴールを迎えることができるようになりました。それに伴い歯科衛生士に求められるものは歯周基本治療に加え各治療に対する知識や技術など多岐にわたって来ました。

約34年の私の臨床経験を通して最近感じることは一人一人違う人生を歩んで来られた患者さんに対し歯科衛生士がどのように関わって行くのかはエビデンスだけでもテクニックだけでも乗り切れるものではないのではないかということです。

特に最近は全身疾患と歯周病の関係が注目され，それらの問題に私たち歯科衛生士とはその専門性を持て其々に応じ，長期に渡り患者さんと関わり情報を把握し良好なコミュニケーションを築いていくことがメインテナンスを持続させ健康を保っていくうえにおいて大切であり，若いころから私たちが関わることができれば口腔の健康を通して慢性疾患を予防することも可能だと言われています。そういう面から見ても今回のテーマであります「貫ぬく」ということは大変意味のあることだと思います。

長い年月で歯科事情が変化する中，私自身も人生の経験を積んで来ました。

私が歯科衛生士としてスタートした時代のその役割と今の歯科衛生士の歯科治療への貢献は比べ物にならないほど大きなものになっていて大変やりがいのある仕事であると実感しています。

離職率が高いと言われる歯科衛生士に長く現役を続けていただくための参考になれば幸いです。